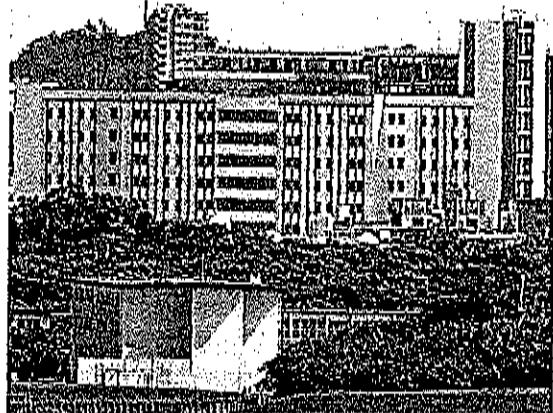


普天間に再びオスプレイ

事故原因 明かさぬまま

米軍は14日、昨年11月の鹿児島県沖での墜落事故後に停止を続けていた日本国内での輸送機オスプレイの飛行を約3カ月ぶりに再開した。米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）で相次いで飛行する様子が確認された。

▼12面=社説、30面=地元で強まる不安



米軍普天間飛行場を飛び立つオスプレイ
=14日午前、沖縄県宜野湾市、上田潤撮影

は当面、基地周辺での飛行から始め、段階的に任務に対応する能力を回復するという。

日米両政府は事故調査の結果、機体の設計や構造に問題はないとの判断。防衛省は13日、関係自治体に飛行再開の方針を伝えたが、事故原因の詳細は明らかにしていない。沖縄県の玉城デニー知事は14日、「飛行再開に強い憤りを禁じ得ない。強く抗議し、引き続きオスプレイの配備撤回を強く求めていく」と述べた。

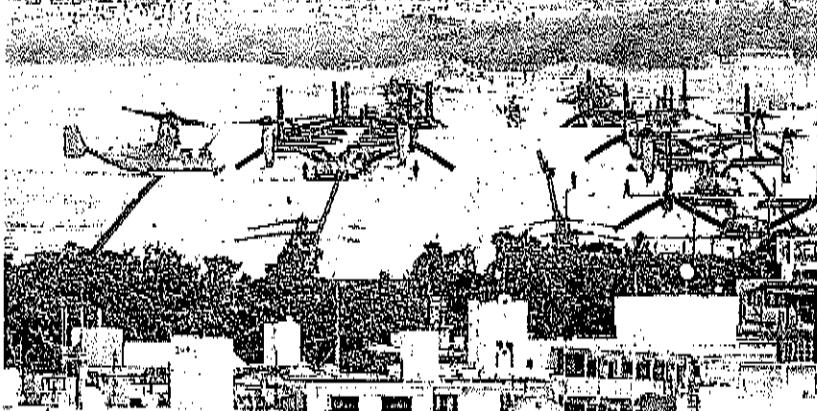
(棚橋咲月)

残る懸念 空にオスプレイ

懸念は払拭されないまま、米軍のオスプレイが約3ヶ月ぶりに飛行を再開した。事故原因さえ公表されていない。オスプレイが日常的に飛び交う地域の人々は、不安と不信を強めている。

▼ 1面参照

3カ月ぶり飛行再開



飛行を終えたオスプレイが戻った米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）

住民「いつどこに落ちるかわからない」

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）では午前8時50分（JST）、1機が移動を始めた。車もなく離陸し、ホバリング後の53分以内、住宅が密集する基地の外へ向かった。普天間には、海兵隊のMV-22オスプレイ計24機が配備されている。午後1時までに12回の離着陸を記者が確認した。

市内の自宅から飛行を回避した伊佐紀光さん（66）は、「家に地図をかけて孫が怖がっていた。不安になる」。近くの公園で機体を回避した女性（68）は「国は米国と住民との向き合いでいるのか」と憤りた。

沖縄では米軍機の事故が絶えず、オスプレイも、2016年に名護市の海岸で大破。21年にはステンレス製水筒が宜野湾市の民家玄関先に落下した。現場近くを住む女性（75）は「いつどこに落ちるかわからない」という気持ちを住民みんなが持つてこな。

政権と協調関係にある宜野湾市の松川正則市長も「誰も納得していない」、「心配」とい

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）では午前8時50分（JST）、1機が移動を始めた。車もなく離陸し、ホバリング後の53分以内、住宅が密集する基地の外へ向かった。普天間には、海兵隊のMV-22オスプレイ計24機が配備されている。午後1時までに12回の離着陸を記者が確認した。

市内の自宅から飛行を回避した伊佐紀光さん（66）は、「家に地図をかけて孫が怖がっていた。不安になる」。近くの公園で機体を回避した女性（68）は「国は米国と住民との向き合いでいるのか」と憤りた。

沖縄では米軍機の事故が絶えず、オスプレイも、2016年に名護市の海岸で大破。21年にはステンレス製水筒が宜野湾市の民家玄関先に落下した。現場近くを住む女性（75）は「いつどこに落ちるかわからない」という気持ちを住民みんなが持つてこな。

政権と協調関係にある宜野湾市の松川正則市長も「誰も納得していない」、「心配」とい

日本報道陣と「県民が十分に安心できる情報提供がないままの飛行再開が極めて過敏」と語気を強めた。

政府への不信感を示すのは、横田基地の地元自治体も同様だ。東京都立川市の酒井大史市長は14日、「市民が納得できる」と語った。

反対は沖縄の自治体に

「まだないな」と語った。

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）では午前8時50分（JST）、1機が移動を始めた。車もなく離

陸し、ホバリング後の53分以内、住宅が密集する

基地の外へ向かった。普

天間には、海兵隊のMV-

22オスプレイ計24機が配

備されている。午後1時

までに12回の離着陸を記

者がある。

市内の自宅から飛行を回避した伊佐紀光さん（66）は、「家に地図をかけて孫が怖がっていた。不安になる」。近くの公園で機体を回避した女性（68）は「国は米国と住民との向き合いでいるのか」と憤りた。

沖縄では米軍機の事故が絶えず、オスプレイも、2016年に名護市の海岸で大破。21年にはステンレス製水筒が宜野湾市の民家玄関先に落下した。現場近くを住む女性（75）は「いつどこに落ちるかわからない」という気持ちを住民みんなが持つてこな。

政権と協調関係にある宜野湾市の松川正則市長も「誰も納得していない」、「心配」とい

日米の「安全・連携」詳細見えず

う表現になってしまった」と語った。

米国防総省も日本側の懸念を踏まえ、日本政府と「緊密に連携していく」（報道官）との姿勢を強調している。発表によると、オースティン国防長官は13日の木原田と

の会見で「（飛行停止の）解除以前においても、日米間で前例のない

レベルで技術情報に関するやりとりがされた」と強調した。木原田防衛相は13日夜、「（日本政府として）事故原因はわかつてない」と述べた上で、「説明できないこと

が原因といつても、詳細につじては調査を続けてい

日本政府は「安全と再開である」と強調するが、関係自治体だけではなく、米国内外でも議会や専門家の間で懸念の声が根強く残る。詳細な原因究明には数ヶ月はかかる見通しだ。

林芳正防衛省官は14日の会見で「（飛行停止の）解除以前においても、日米間で前例のない

電話協議で、飛行再開にあたっては「米軍と日本の関係地域の安全が最優先事項だ」との考え方を改めて伝えた。

昨年11月末の鹿児島県屋久島沖での墜落事故で、米軍は事故機のデータレコーダーを回収。

「特定の部品の不具合」が原因といつても、詳細につじては調査を続けてい

る段階だ。米メディアは匿名の当局者の話として、ギアボックスに不具合が生じた「前例のない」事態だと指摘してきた。オスプレイによる重大な事故は従来も相次いでいる。事故原因や再発防止策の詳細が明らかにされないまま飛行再開が決まり、米国内でも議会や専門家らから懸念の声が出していた。米議会も昨年12月から、独自の調査に乗じて、米軍による事故の調査報告書は予定だ。APと連絡が2ヶ月以内に調査が完了する

見通し)などと伝えられる。

（鹿児島）=鶴原